

〔名物六帖器財三〕胡床タ、ミシヤウキ

〔本朝軍器考十一〕床アツラ几オラトイフ物ハ、古ノ胡床也、胡床ハ倭名抄ニ、此間ニハ阿ア久ク良ラトイフヨシ注セリ、○中略 天若日子、胡床ニ寢タリシ、高胸坂ニアタリテ死ストイフコト、古事記ニアレバ、此物神代ヨリアリケルニヤ、タ、シ風俗通ニ、靈帝胡服ヲ好ミ給ヒシホドニ、京ミナ胡床作レリトアレバ、異朝ニハ、後漢ノ末ニ出來シ物也、又器物叢談トイフ物ニ、胡床ハ胡人偃坐シテ睡レバ、此ノ名ヲ得タリ、隋ノ時ニ讖ニ胡トイフ字アル故ニ、改メテ交床カウシヤウトイヒシヲ、唐代ヨリ繩床ゼウシヤウトナヅクトハシルセリ、風俗通ノ說ニヨレバ、胡國ヨリ出ヅ、叢談ノ說ニヨレバ、胡國ヨリハ出デネド、偃坐シテ睡ルベキ物ナレバ、胡人ノ俗ニ似タリトテカク名ヅケシ也、イヅレニモアレ、後漢ノ比ニヤ出來ヌランヲ、我が國ノ地神ノ代ニ此ノ物アルベシト思ハレズ、サレバニヤ舊事紀、日本書紀ニハ、タダ天稚彥ノフシタリトバカリアリテ、胡床ニ寢タリシトハ見エズ、コレハ古事記撰バレシ時ニ、此ノ物ステニアリシカバ、今見ル所ニヨリテ、神代ノ事ニ、此ノ文字ヲ誤リ用ヒタル也、古ノ時戰場ニ用ヒシモノ、今世ニアル制ニハアラズトイフ人アリ、心得ガタシヤ、用明天皇崩ジ給ヒシ時、帝ノ御弟穴穗部皇子ノ三輪君逆ヲ殺サントテ、物部守屋大連ト兵ヲ將テ其家ヲ圍マル、逆ノ君ノガレテ後宮ニカクレシカバ、皇子ハ大連シテソレヲ討シメ、ミヅカラハ胡床ニシリウチカケテ、マチ給ヒシトイフ事アリ、コレ昔戰ノ時、此ノ物用ヒラレシ證也、モシハ又其ノ形今ノ物ニアラズトイハ、梁ノ庾肩吾胡床ノ詩ニ、傳名乃外域、入用信中原、足欹形已正、文斜體自平、トイフ物ハ、今ノ制ニアラザランヤハ、彼梁ノ代ハ、我國ニシテ用明天皇ノ御時ヨリハ、猶少シクサキノ代ニゾアタリ侍リ、

〔倭訓栞前編二〕あぐら 胡床をよめり、古事記に吳床とも見ゆ、足座の義也、玉纏の胡床、倭文纏の胡床など、日本紀の歌に見たり、俗に床机といふ是也、